

2026-2027 年度第 1 回在京秋田県高等学校同窓会連合会役員会議事録

1. 日 時 令和 8 年 7 月 24 日（金）15 時 00 分～16 時 50 分

2. 場 所 中央区立環境情報センター「エコノバ」6F 研修室 2

3. 出席者（敬称略） 長瀬、武藤、根市、大森、三浦、藤原、田中、高田
高橋、佐々木（今野・代理）、藤原（宏子）、
小野寺（大類・代理）、松田（熊谷・代理）、岸谷、柴田
15 人

4. 会長から幹事長が所用で少し遅れることの報告と、総会、フェスタ、ふるさと訪問などご苦労様でしたと挨拶があり開会した。

5. 議事（議長：長瀬会長）

（1）総会・フェスタの総括（2026.5.31）－幹事長の HP 掲載文配布
配布された資料により総括が行われた。参加者は 150 名。

総会は時間通りに始まり、議長の進行もスムーズで、実情を踏まえた事業説明や会計報告ができたものと思われる。今年は役員改選期であったが、昨年と同じメンバーが承認された。フェスタ一部は例年通り講演会からスタート。わかりやすい内容で講演後に質問タイムもあり好評であった。二部は県民歌から始まり、乾杯、余興とほぼ時間通りに進み終了できたことを確認。ただ来年の検討事項として、「少しマイク音が大きすぎる（一部テーブル）」や「参加者同士で会話を交わす時間が少ない」「日本酒をもう少し用意して欲しい」などの声があったことが報告された。

（2）令和 8 年ふるさと訪問団の報告（2026.6.25-26）－HP 掲載文配布

大きな災害に直面して大変な旅行となったことが旅行担当幹事の岸谷監事から報告された。秋田に向かう新幹線が白石蔵王駅でストップし、在来線を乗り継いで秋田へ。夕方遅くにようやく秋田で待っていた参加者と合流。宿泊先での懇親会でやっと人心地、ふるさと訪問の気分を味わうことができた。初日の予定はすべてキャンセルとなったことや体調を崩された方がいてその対応にも苦慮したことなど報告があり、来年以降、不測の事態に備えて参加者の情報をもう少し把握しておいた方が良いかもしれないことと、秋田で合流する参加者との連絡体制も考えておいた方が良いのではないかと岸谷担当幹事からアドバイスがあった。今年のふるさと訪問事業の収支決算書も提示され、予定変更による支出の増減の説明があった。ただこの様な状況でも苦情を言う参加者はおらず、記憶に残る素晴らしいふるさと訪問になった。的確な判断と情報を提供してくれた岸谷担当幹事に労いと感謝の言葉が送られた。

(3) ミニハイクについて

文体担当の高橋副幹事長から、近年、神奈川県開催が多かったので、千葉県と東京都開催、3件の提案があった。検討の結果、迎賓館赤坂離宮（東京都港区赤坂）を中心とした散策を検討することになった。

開催日は同窓会やイベントを避けた11月2日(月)と決定。

(4) 令和9年総会・フェスタについて(2027.5.22)

会場の都合により、来年度は令和9年5月22日(土)開催。集合時間など今年と同じように進めることで了承された。また今年の反省点を考慮して、テーブル位置による音響のチェックや緩やかな時間割などを検討していくこととした。

(5) 令和9年ふるさと訪問団について(県央地区)

今回は中央地区訪問となる。担当は大森副会長が中心となって検討する。まだ訪問していない高校を中心に学校訪問を検討。秋田県の風力発電事情などの理解も深めたい。また宿泊先の検討や少し早いのではないかという意見がある集合時間なども検討する。近年の物価高もあり予算との兼ね合いも検討材料として挙げられた。

(6) 会計報告ー2026.6.30 現在の決算書配布

6/30 現在の会計決算書が資料として配布された。会計担当が全員欠席のため詳細な説明はなかったが、現在まで予算を大きく外れる収支は見当たらないことが確認された。

(7) その他

武藤会長代行より、7月30日(木) 甲子園出場を決めた横手高校野球部の激励会を新宿（三平会館）で開催されることが報告された。

6.閉会（副会長）

三浦副会長による閉会の挨拶で役員会は終了した。

※閉会后、会場ビル地下の居酒屋で懇親会を開催。(12名参加)

以 上